

(様式第1-1)

事業計画書

1 申請者の概要

(1) 代表企業

申請者（代表企業）	
	フリガナ： 名 称： 代表者名および役職名： 住 所：〒 電話番号： 業種： 資本金： 従業員数：
2. 連絡担当者	
	連絡担当者名および役職名： 住 所：〒 電話番号： F A X 番号： メールアドレス：

(2) 連携企業

連携企業①	
	フリガナ： 名 称： 代表者名および役職名： 住 所：〒 電話番号： 業種： 資本金： 従業員数：
2. 連絡担当者	
	連絡担当者名および役職名： 住 所：〒 電話番号： F A X 番号： メールアドレス：

連携企業②	
	フリガナ： 名 称： 代表者名および役職名： 住 所：〒 電話番号： 業種： 資本金： 従業員数：
2. 連絡担当者	
	連絡担当者名および役職名： 住 所：〒 電話番号： F A X 番号： メールアドレス：

2 直近3期分の決算状況

(月決算、単位：千円)

	年度	年度	年度
固 定 資 産			
総 資 産			
借 入 金 総 額			
自 己 資 本			
売 上 高			
営 業 利 益			
経 常 利 益			
当 期 利 益			

※ 代表企業の決算状況を記入

3 事業説明

I. 事業名	
どんな事業なのかがイメージできる名称としてください（30文字程度）。	
II. 事業内容等	
「市場性」や「優位性」、「実現可能性」の評価ポイントとなります。	
事業期間	令和 年 月 ～ 令和 年 月
事業概要	新製品、新技術、新サービスの研究開発概要について、簡潔に記載してください。
対象顧客の現状、課題	新製品、新技術、新サービスの開発にあたり、対象とする顧客の現状と課題について、開発に至る経緯等を踏まえ、具体的に記載してください。
市場ニーズ	対象とする顧客や市場の課題を解決するため、どのようなニーズを踏まえ開発しようとしているのか、またどのくらいの市場規模か等、客観的に記載してください。

ニーズがあると判断した根拠	対象とする顧客や市場のニーズをどのように把握したか、具体的に記載してください。 例１：既存の製品で取引のある顧客から〇〇のニーズを直接聞いた 例２：市内在住小学生の子を持つ保護者〇〇人に実施したアンケート調査												
開発する新製品、新技術、新サービスの特徴・優位性	価格や性能を踏まえ、対象とする顧客の利便性がどの程度向上するかを明らかにした上で、開発する新製品、新技術、新サービスの特徴や強み、競合他社や従来技術などとの差異などを記載してください。												
本開発の基礎となる過去の開発実績	本開発の基礎となる過去の開発実績について、 ①期間（いつからいつまで行ったか） ②内容（どのような開発を行ったのか） ③成果 等を記載してください。												
Ⅲ. 事業化スケジュール 「実現可能性」の評価ポイントとなります。													
到達目標	開発に向けての具体的な目標を記載してください。												
実施項目	<table border="1"> <tr> <td>4月</td><td>5月</td><td>6月</td><td>7月</td><td>8月</td><td>9月</td><td>10月</td><td>11月</td><td>12月</td><td>1月</td><td>2月</td><td>3月</td></tr> </table>	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
	実施項目ごとのスケジュールを、「→」で記載してください。												

IV. 収支等計画書（代表企業の当該事業）		（単位：千円）		
	補助期間	補助期間終了後		
		1 年目	2 年目	3 年目
①売上高				
②売上原価				
③売上総利益 (①－②)				
④販売費及び 一般管理費				
研究開発費				
広告宣伝費				
その他				
⑤営業利益				
⑥営業外収益				
⑦営業外費用				
⑧経常利益 (⑤＋⑥－⑦)				
⑨人件費				
⑩減価償却費				
⑪従業員数				
自己資金				
借入金				
補助金				
その他				

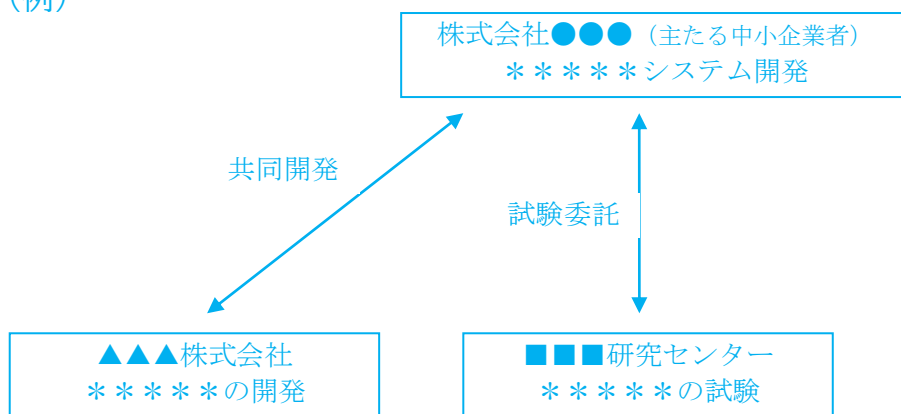
「実現可能性」や「将来性」
の評価ポイントとなります。

「実現可能性」の評価ポイント
となります。

4 事業の実施体制

I. 実施体制（図）

（例）



必ずしも、市内のみで連携する必要はありません。

Ⅱ. 連携体の役割分担 ※産学連携枠に申請の場合記入すること

企業名	役割
▲▲▲株式会社	*****の開発
■■■研究センター	*****の試験

5 補助期間終了後の計画

「将来性」の評価ポイントとなります。

I. 販路開拓手法

対象顧客への周知方法や販売ルートの確立手法等、販路開拓の手法を記載してください。

Ⅱ. 販売の見通し

販売について、
①時期
②数量
③金額
等の見通しを記載してください。

Ⅲ. 量産化の見通し

量産が見込まれる場合の、
①原材料の調達可否
②原材料の調達方法
③製造等製品の供給体制
等の見通しを記載してください。